

ほすびたる

No.699

平成28年4月20日
福岡県病院協会

C O N T E N T S

会員広報	平成27年度 臨時会員総会	公益社団法人福岡県病院協会	1
新人物	福岡県の精神科医療の 更なる充実発展をめざして	福岡県立精神医療センター 太宰府病院 院長 小嶋 享二	5
	地域医療構想と 新専門医制度を見据えて	久留米大学病院 病院長 志波 直人	7
病院管理	地域を支え、日本を支える 地域包括ケア病院	社会医療法人原土井病院 地域連携センター課長 院長 竹内 徹 小柳 左門	9
	事務が取り組む課題について	医療法人原三信病院 事務部長 安武 義泰	11
	事務部長就任のご挨拶	国家公務員共済組合連合会 浜の町病院 事務部長 宮本 清	12
Letter	心に残る言葉 ～その2 なにげない一言	国立病院機構九州医療センター 名誉院長 学校法人原学園原看護専門学校 学校長 朔 元則	14
看護の窓	抑制廃止福岡宣言	社会医療法人原土井病院 看護部長 関 和雄	16
	療養型病院における 職員教育の工夫と課題	医療法人相生会金隈病院 看護部長 瀬戸口文美江	18
Essay	清水寺は崖の上	元医療法人誠十字病院 平衡神経科 医師 安田 宏一	21
	人体旅行記 踵 (その一)	国立病院機構九州医療センター 医療情報管理センター 部長 吉住 秀之	22

■福精協の広場	『私の看護師ヒストリーと老後のお願い』	医療法人社団豊和会豊前病院 デイケアセンター部長(看護師) 田上 米一	23
■福岡県私設病院協会	平成28年3月福岡県私設病院協会の動き		25
■福岡県病院協会だより			26
■編集後記		岡嶋泰一郎	29

Teleradiology Service. and ASP Service.

確かな診断を、より確かなものに。
ネットワークを利用した読影サービスで、
あなたをバックアップします。



Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～
医療に地域格差があってはならない
そう私たちは考えます。

ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～
放射線科の先生方向けに、遠隔
読影システムから課金に至るまで
統合的にサービスをご提供します。

株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24-1
九電工福岡支店ビル6階
フリーダイヤル:0120-270614 FAX:092-533-8867
ホームページアドレス <http://www.nmed-center.co.jp/>

寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテンのリース洗濯 患者私物衣類の洗濯

☆寝具・カーテン・看護衣・診察台カバー・タオル・紙おむつ・レセプト用紙
介護用品等の販売、ベッドマットリース・販売、給食材料・給食依託業者・
重油等の斡旋及び各種保険の取扱いもしております。

福岡県私設病院協会グループ

福岡医療関連協業組合

Clean & Comfortable



理事長 陣 内 重 三

専務理事	吉松 秀則	理 事	佐田 正之
理 事	原 寛	監 事	牟田 和男
理 事	武田 正勝	監 事	津留 英智
理 事	江頭 啓介	事務局長	関 賢司

〒811-2502 糟屋郡久山町大字山田 1217-17
TEL 092-976-0500 / FAX 092-976-2247

福岡県病院協会 平成27年度臨時会員総会

◎（公社）福岡県病院協会事務局

日 時 平成28年3月22日（火）
17時10分から
場 所 ANAクラウンプラザホテル福岡
2F「ウィステリア」
出席者 当日出席者 28名
委任状提出者171名
計199名（総会員数251名中）

■開会宣言

上野道雄専務理事は、平成27年度臨時会員総会の開会を宣言。

■総会成立宣言

岡嶋泰一郎議長は、定款第22条による定足数は総会員数251名の過半数126名であり、出席者は委任状提出者を含めて199名で定足数を超えており、総会は適法に成立する旨宣言。

■会長挨拶

石橋達朗会長挨拶

■議事録署名人選出

岡嶋議長は、本日の議事録署名人として、福岡通信病院院長の津田泰夫理事及び医療法人相生会宮田病院院長の中山眞一理事を選出。

■議案審議（岡嶋議長）

○第1号議案「平成28年度福岡県病院協会事業計画書（案）」

上野専務理事から概ね次のように議案説明がなされた。

激動する医療変革の渦中であって、地域医療の普及向上と県民の健康増進に寄与することを目的として、第1項の「地域医療の充実に関する事業」から第10項の「その他本会の目的達成に必要な事業」までを行うべき事業として掲げている。「地域医療の充実に関する事業」については、現在福岡県において“福岡県地域医療構想”策定に向けて検討が進められており、当協会からも委員を派遣して協議に参画しているが、最重要課題として昨年の臨時総会での審議により事業計画の先頭に持ってきたという経緯がある。状況は変わらないので平成27年度と同様の位置づけとしている。

第2項の「県民を対象とする医療に関するシンポジウムの開催」については、第10回県民公開医療シンポジウムが平成28年9月

17日に福岡市中央区の「アクロス福岡」での開催が決定しており、県民公開医療シンポジウム企画委員会において企画・準備が進められている。また、第3項の「病院職員等医療従事者に対する専門的知識・技術の習得を目的とした研修会の開催」に関して看護研修会等を年間計11回開催予定であり、第5項の「病院職員等に対する診療報酬制度等研究会の開催」に関して経営管理研究会等を年間計3回開催予定である。（参照：平成28年度研修会及び研究会開催計画表（案））そこから得られる受講料が本協会の大きな収入源となっているため、会員の参加協力をお願いする。

また、第4項の「機関紙“ほすびたる”の発行」は、昭和28年以来の伝統ある事業であり、さらに充実した内容を目指していく。そのほか「関係官公署及び医師会その他の友好団体との連携協力に関する事業」、「医療の質の向上に関する事業」や「病院管理に関する事業」等を推進していく。

説明を受けて壁村理事から、担当の臨床検査委員会に関連して、研修会の名称を「病院システム管理研修会」から「臨床検査研修会」に変更することが委員会で決定されたことに伴い、平成28年度研修会及び研究会開催計画表（案）の記載の変更を提案された。

議長は、第1号議案について議場に諮ったところ、壁村理事提案の研修会の名称の変更を含めて、全員拍手により承認された。

○第2号議案「平成28年度福岡県病院協会収支予算書（案）」

平財務理事から概ね次のように議案説明がなされた。

経常収益については、会費収入を1,250万円、事業ごとの会費の配分については、昨年6月の定時会員総会において「会費等に関する定款施行規則」を改正し、第4条に「3割以上を公益目的事業のために使用し、残余

はその他の事業及び管理費用のために使用する」という規定を設けたので、平成 27 年度の決算見込みを参考に、公益目的事業に 45%、共益事業に 5%、法人会計に 50%としている。

事業収益として、県民公開医療シンポジウムプログラム広告料 105 万円、各種研修会の受講料計 992 万 5 千円、ほすびたる広告料 147 万 8 千円、研究会受講料計 173 万円、さらに補助金収入 611 万円などであり、収益合計額を 3,284 万 8 千円としている。

経常費用については、県民公開医療シンポジウムに関して 428 万 9 千円、研修会に関しては 1,499 万 6 千円であり、公益目的事業として計 1,928 万 5 千円を計上、また、ほすびたるの発行に関しては 505 万 9 千円、研究会に関して 143 万 9 千円であり、共益事業として計 660 万 6 千円を、さらに法人会計では管理費として 687 万円を計上し、経常費用合計額として 3,264 万 8 千円としている。

加えて、公益法人の会計基準に関して、公益目的事業費の割合が総事業費の 59%となっており、また、公益目的事業の収支についても若干の赤字としており、いずれも基準を満たしている。

議長は、第 2 号議案について議場に諮ったところ、全員拍手により原案どおり承認された。

○第 3 号議案「理事の補充選任について」

上野専務理事から概ね次のように議案説明がなされた。

昨年 12 月に福岡大学病院の病院長の交代があり、当協会の理事（副会長）であった前院長の田村氏が退任され、井上氏が就任された。従来から県内 4 大学病院の病院長には役員になって頂いているので、井上氏にも役員就任をお願いしたいところ、役員になって頂くためには会員総会での選任が必要であるので、この臨時会員総会に提案した。任期は前任者の残任期間の平成 28 年度定時会員総会終結時までである。

議長は、第 3 号議案について議場に諮ったところ、全員拍手により原案どおり承認された。

また議長は、事前に開催された第 32 回理事会において、井上氏が会員総会で理事に選任された場合は「副会長」にご就任頂くことが決議されている旨を紹介するとともに、井上副会長の新任挨拶を促したところ、井上副会長が挨拶と抱負を述べられた。

■議案審議終了

岡嶋議長の議案審議終了宣言。

■総会終了

上野専務理事から、議長に対する謝辞と閉会が宣せられ、平成 27 年度臨時会員総会は滞りなく終了した。

【第 1 号議案】

平成 28 年度 福岡県病院協会事業計画書（案）

激動する医療変革の渦中であって、地域医療の普及向上と、県民の健康増進に寄与するために、次の事業を行う。

1. 地域医療の充実に関する事業
2. 県民を対象とする医療に関するシンポジウムの開催
3. 病院職員等医療従事者に対する専門的知識・技術の習得を目的とした研修会の開催
4. 機関誌「ほすびたる」の発行
5. 病院職員等に対する診療報酬制度等研究会の開催
6. 関係官公署並び、医師会その他の友好団体との連携協力に関する事業
7. 医療の質の向上に関する事業
8. 病院管理に関する事業
9. 医療安全に関する事業
10. その他本会の目的達成に必要な事業

平成 28 年度 研修会及び研究会開催計画表（案）

公益社団法人 福岡県病院協会

月別	研修会等名	区分	日数	開催日・会場	
6 月	経 営 管 理 研 究 会	共益	半日	開催日 会 場	未 定 未 定
	看 護 研 修 会	公益	1 日	開催日 会 場	平成 28 年 6 月 28 日（水） 九大医学部百年講堂（予定）
	診療情報管理研究研修会	公益	1 日	開催日 会 場	未 定 未 定
8 月	栄 養 管 理 研 修 会	公益	1 日	開催日 会 場	平成 28 年 8 月 27 日（土） 九州医学部百年講堂
	看 護 研 修 会	公益	1 日	開催日 会 場	未 定 九大医学部百年講堂（予定）
10 月	リハビリテーション研修会	公益	半日	開催日 会 場	未 定 未 定
	看 護 研 修 会	公益	1 日	開催日 会 場	未 定 九大医学部百年講堂（予定）
11 月	診療情報管理研究研修会	公益	1 日	開催日 会 場	未 定 未 定
12 月	看 護 研 修 会	公益	1 日	開催日 会 場	平成 28 年 12 月 15 日（木） 九大医学部百年講堂（予定）
	病 院 研 修 会	公益	半日	開催日 会 場	未 定 未 定
2 月	病院システム管理研修会	公益	半日	開催日 会 場	未 定 未 定
	経 営 管 理 研 究 会	共益	半日	開催日 会 場	未 定 未 定
3 月	医 療 事 務 研 究 会	共益	半日	開催日 会 場	未 定 未 定
	リハビリテーション研修会	公益	半日	開催日 会 場	未 定 未 定

※ 新平成 28 年度福岡県中小病院・診療所薬剤師研修会議を福岡県病院薬剤師会との共催で開催予定
（平成 28 年 6 月 19 日・九州大学医学部百年講堂）

※ 平成 28 年 9 月 17 日（土）に「第 10 回県民公開医療シンポジウム」を福岡市中央区「アクロス福岡」
で開催予定。

※「区分」 公益 → 公益目的事業 共益 → 共益的事业

【第 2 号議案】

平成 28 年度 福岡県病院協会収支予算書（案）

（自 平成 28 年 4 月 1 日 ～ 至 平成 29 年 3 月 31 日）

（単位：円）

科目名	事業区分		1:公益目的事業				2:共益事業				3:法人会計	合 計		
	公1	公2	共通	小計	他1	他2	共通	小計	28年度 予 算 額	前年度予算		差 異		
	シンポジウム	研修			機関誌	研究会								
【正味財産増減計算書】														
Ⅰ 一般正味財産増減の部														
1. 経常増減の部														
(1) 経常収益														
基本財産運用益														
特定資産運用益	0	0	21,000	21,000	0	0	0	0	0	21,000	21,000	0		
特定資産受取利息	0	0	21,000	21,000	0	0	0	0	0	21,000	21,000	0		
受取入会金	0	0	5,000	5,000	0	0	0	0	5,000	10,000	10,000	0		
受取入会金	0	0	5,000	5,000	0	0	0	0	5,000	10,000	10,000	0		
受取会費	0	0	5,625,000	5,625,000	0	0	625,000	625,000	6,250,000	12,500,000	12,650,000	-150,000		
受取会費	0	0	5,625,000	5,625,000	0	0	625,000	625,000	6,250,000	12,500,000	12,650,000	-150,000		
事業収益	1,050,000	9,925,000	0	10,975,000	1,478,000	1,730,000	0	3,208,000	0	14,183,000	14,096,000	87,000		
研修会参加料														
病院研修会	0	250,000	0	250,000	0	0	0	0	0	250,000	250,000	0		
看護研修会	0	5,000,000	0	5,000,000	0	0	0	0	0	5,000,000	4,500,000	500,000		
栄養管理研修会	0	1,025,000	0	1,025,000	0	0	0	0	0	1,025,000	970,000	55,000		
診療情報管理研究研修会	0	1,500,000	0	1,500,000	0	0	0	0	0	1,500,000	1,550,000	-50,000		
リハビリテーション研修会	0	1,850,000	0	1,850,000	0	0	0	0	0	1,850,000	1,660,000	190,000		
病院システム管理研修会	0	300,000	0	300,000	0	0	0	0	0	300,000	300,000	0		
経営管理研究会	0	0	0	0	0	1,110,000	0	1,110,000	0	1,110,000	1,260,000	-150,000		
医療事務研究会	0	0	0	0	0	620,000	0	620,000	0	620,000	870,000	-250,000		
ほすびたる広告料	0	0	0	0	1,478,000	0	0	1,478,000	0	1,478,000	1,686,000	-208,000		
プログラム広告料	1,050,000	0	0	1,050,000	0	0	0	0	0	1,050,000	1,050,000	0		
受取補助金等	625,000	1,875,000	0	2,500,000	3,250,000	360,000	0	3,610,000	0	6,110,000	6,160,000	-50,000		
受取地方公共団体補助金	625,000	1,875,000	0	2,500,000	3,250,000	360,000	0	3,610,000	0	6,110,000	6,110,000	0		

受取民間助成金	0		0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	-50,000
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	21,000	21,000	0	0	0	0	3,000	24,000	27,000	-3,000
受取利息	0	0	21,000	21,000	0	0	0	0	2,000	23,000	26,000	-3,000
雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0	1,000	1,000	1,000	0
経常収益計	1,675,000	11,800,000	5,672,000	19,147,000	4,728,000	2,090,000	625,000	7,443,000	6,258,000	32,848,000	32,964,000	-116,000
(2) 経常費用												
事業費	4,289,000	14,996,000	0	19,285,000	5,059,000	1,439,000	0	6,498,000	0	25,778,000	25,967,000	-189,000
給料手当	2,200,000	6,534,000	0	8,734,000	793,000	608,000	0	1,401,000	0	10,135,000	10,135,000	0
臨時雇賃金	6,000	18,000	0	24,000	2,000	2,000	0	4,000	0	28,000	28,000	0
福利厚生費	365,000	1,088,000	0	1,453,000	173,000	61,000	0	234,000	0	1,687,000	1,687,000	0
委員会費	132,000	972,000	0	1,104,000	167,000	89,000	0	256,000	0	1,360,000	1,860,000	-500,000
委員日当	0	408,000	0	408,000	0	51,000	0	46,000	0	454,000	454,000	0
応援者日当	20,000	0	0	20,000	0	0	0	0	0	20,000	20,000	0
旅費交通費	125,000	527,000	0	652,000	0	4,000	0	4,000	0	656,000	501,000	155,000
通信運搬費	145,000	525,000	0	670,000	450,000	35,000	0	485,000	0	1,155,000	1,221,000	-66,000
消耗品費	13,000	76,000	0	89,000	6,000	6,000	0	12,000	0	101,000	954,000	-853,000
印刷製本費	259,000	1,950,000	0	2,209,000	2,974,000	358,000	0	3,332,000	0	5,541,000	4,166,000	1,375,000
光熱水料費	22,000	64,000	0	86,000	10,000	4,000	0	14,000	0	100,000	91,000	9,000
地代家賃	225,000	671,000	0	896,000	106,000	38,000	0	144,000	0	1,040,000	1,040,000	0
賃借料	130,000	998,000	0	1,128,000	0	72,000	0	72,000	0	1,200,000	1,225,000	-25,000
謝金(諸謝金)	220,000	1,029,000	0	1,249,000	0	100,000	0	100,000	0	1,349,000	1,600,000	-251,000
委託費	250,000	0	0	250,000	0	0	0	0	0	250,000	350,000	-100,000
編集取材費	0	0	0	0	372,000	0	0	372,000	0	372,000	360,000	12,000
雑費	177,000	136,000	0	313,000	6,000	11,000	0	17,000	0	330,000	275,000	55,000
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0	6,870,000	6,870,000	6,797,000	73,000
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	2,065,000	2,065,000	2,065,000	0
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	5,000	5,000	5,000	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	343,000	343,000	343,000	0
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,800,000	1,800,000	1,641,000	159,000
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	394,000	394,000	300,000	94,000
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	495,000	495,000	523,000	-28,000
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	25,000	25,000	238,000	-213,000
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	345,000	345,000	499,000	-154,000
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	20,000	20,000	19,000	1,000
地代家賃	0	0	0	0	0	0	0	0	211,000	211,000	211,000	0
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	100,000	100,000	100,000	0
諸謝金	0	0	0	0	0	0	0	0	296,000	296,000	353,000	-57,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	580,000	580,000	340,000	240,000
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	191,000	191,000	160,000	31,000
予備費支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常費用計	4,289,000	14,996,000	0	19,285,000	5,059,000	1,439,000	0	6,498,000	6,870,000	32,648,000	32,764,000	-116,000
評価損益等調整前当期経常増減額	-2,614,000	-3,196,000	5,672,000	-138,000	-331,000	651,000	625,000	945,000	-612,000	200,000	200,000	0
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	-2,614,000	-3,196,000	5,672,000	-138,000	-331,000	651,000	625,000	945,000	-612,000	200,000	200,000	0

【第3号議案】

理事の補充選任について

定款第19条第1項に規定する役員（理事）について、下記のとおり補充選任を行うため、定款第20条第1項の規定に基づき会員総会の決議を求めるものである。

記

新たに選任する役員
役職名 理事
氏 名 井上 亨（福岡大学病院 病院長）
任 期 平成28年3月22日から平成28年度定時会員総会終結時まで

（参考） 辞任した役員
役職名 理事
氏 名 田村 和夫（福岡大学病院 前病院長）
辞任年月日 平成27年11月30日

福岡県立精神医療センター
太宰府病院 院長

小嶋 享二



福岡県の精神科医療の 更なる充実発展をめざして

平成 28 年 4 月 1 日より福岡県立精神医療センター太宰府病院院長を拝命しました小嶋です。「新人物」という程の者ではありませんが、一言ご挨拶申し上げます。

まずは苦手な自己紹介ですが、私は現在の「うきは市吉井町」に生まれ、幼児期をそこで過ごしました。今考えれば少し危ないのですが、巨瀬川（筑後川の支流）にかかった久大線の鉄橋を歩いて渡ったり、行き先もわからず勝手にバスに乗って迷子になり、遠方で保護されるなどやや落着きの無い子供でした。幼稚園から高校まで久留米市で過ごし、B級グルメは勿論大好きで、生粋の筑後人と自分では思っています。

昭和 61 年に九州大学を卒業し、精神神経科（中尾弘之教授）に入局、脳生理研究室に所属し、田代信維教授のご指導のもと、ネコ視床下部微小電気刺激による情動行動（恐怖や怒り）に伴う、自律神経内分泌系のストレス反応について研究させて頂きました。また中央検査部脳波室に 2 年程勤務しながら、脳波の判読とてんかん患者さんの診療に従事しました。その後は白十字病院精神科を経て、国立病院時代の九州医療センター精神神経科で、取達慎一先生のもと勤務し、その後九大精神科に戻り現在の神庭重信教授の教室でしばらく働かせて頂いた後、平成 16 年に九州医療センター精神神経科医長に就任しました（当時は朔 元則病院長）。総合病院の有床精神科として身体合併症医療や認知症、脳器質疾患や身体疾患に伴う精神症状等の診療に従事し、精神科にとって身体科との密接な連携がいかに重要で不可欠であるかを再認識しました。平成 22 年には、太宰府病院前院長

の二宮英彰先生と神庭教授のお計らいで、太宰府病院副院長として転任させて頂き、自分の人生初の精神科病院勤務になりました。それからの別世界での 6 年間はあっという間で現在に至っています。

それでは、新院長として太宰府病院の紹介を簡単にさせて頂きます。当院は昭和 6 年に筑紫保養院として発足し、最大 500 床までの増床改築を経て昭和 41 年に名称を福岡県立太宰府病院へ変更しました。平成 7 年には県立病院改革計画に則って病院機能を転換し、精神科救急医療、アルコールや薬物等中毒性疾患、重度かつ慢性患者への対応、身体合併症（結核）等民間では対応困難な精神科医療を行なう施設として舵を切りました。平成 10 年には、福岡県の精神科救急医療システムに当番病院及び拠点専門病院として参加し、平成 13 年には全面改築工事竣工（300 床）し現在の病院が出来上がりました。平成 17 年には、医療・介護・教育研究財団を指定管理者として、精神科自治体病院としては初の公設民営化が行なわれ、県立病院としての公的な役割、使命を果たしつつも、柔軟で効率的な人材確保や財源の運用を通して、経営の健全化が進められました。平成 22 年には日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の認定を受けています。

現在当院は、福岡県の精神科医療を担う中核施設として、精神科救急医療、アルコールリハビリテーションプログラム（ARP/Zero の会）、薬物依存症治療プログラム、司法精神鑑定、医療観察法鑑定と医療観察法通院処遇の受け入れ、結核医療、修正型電気けいれん療法、クロ

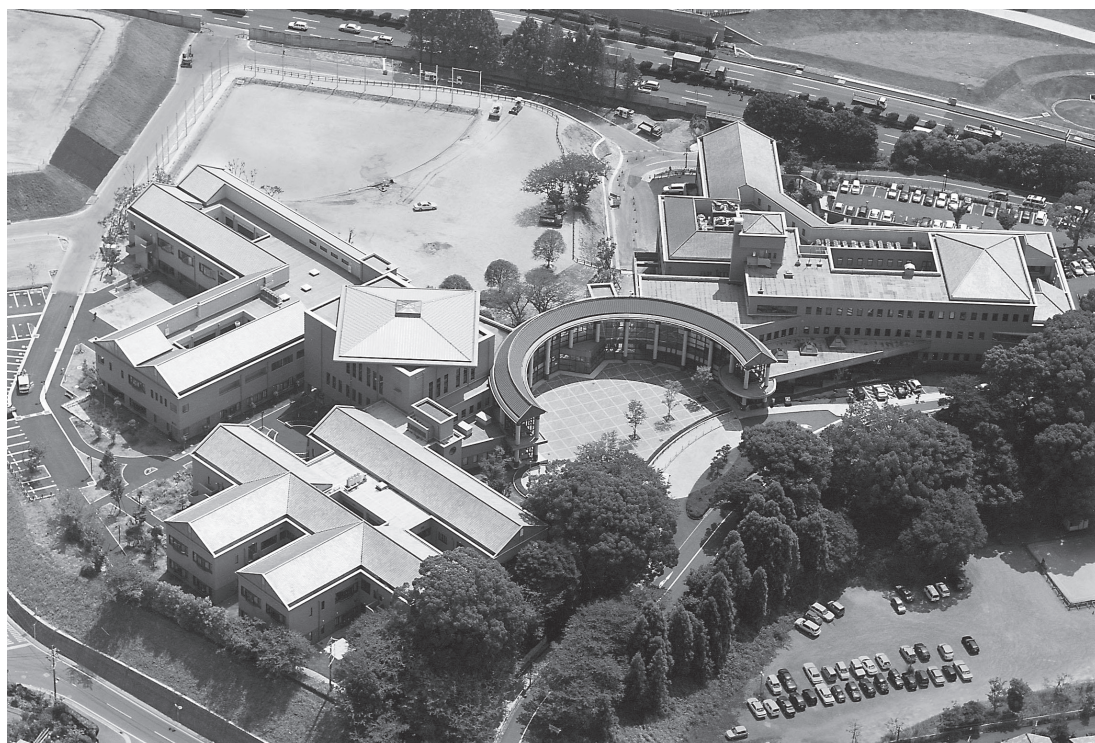
ザピン内服治療、デイホスピタル、作業療法、訪問看護、発達障害や引きこもりを含む児童思春期症例の受け入れ、認知症医療、心理（疾病）教育、家族教室、家族会の運営、地域医療連携および退院支援、心理カウンセリング、各種心理療法（SST、認知行動療法他）、行動制限最小化、服薬指導、処方適正化単剤化、各種新薬の治験、栄養指導等々広い守備範囲のすべてに於いて鋭意取り組みを行なっています。

入院が長期化し保護室を占有しがちな、矯正施設出所後のケースを含む重度かつ慢性症例へ

の対応や、近日中に施行される薬物依存症者に対する刑の一部執行猶予制度と治療プログラム実施等については、採算性を勘案しながら公的病院としての役目を如何に果たして行くべきか、更には今年度の診療報酬改定や地域医療構想の問題等、課題は山積であります。しかし今後も私達は、ますます地域や県民の皆様に開かれた敷居の低い病院、質の高い安全な医療を提供できる病院になるよう力を入れて参る所存で御座いますので、何卒宜しくお願い申し上げます。



太宰府病院正面外観



太宰府病院鳥瞰

久留米大学病院 病院長 志波 直人



地域医療構想と 新専門医制度を見据えて

2016年4月1日に久留米大学病院長を拝命いたしました志波です。皆様にご挨拶とともに、抱負などを述べさせていただければと存じます。まずは自己紹介をさせていただきます。私は長崎県の諫早高校出身で1976年（昭和51）に久留米大学医学部に入学、1982年（昭和57）に久留米大学医学部整形外科学教室（宮城成圭教授）へ入局しました。1983年、大阪大学から井上明生教授が久留米大学に赴任され、それを機に井上先生に師事して股関節外科の研鑽を積みました。

1990年からはMayo Clinicの整形外科Biomechanics研究室（Edmund Y.S. Chao教授）に留学の機会を得て、人工股関節や股関節骨切り手術、下肢装具のバイオメカニクスに関する研究を行いました。1991年に帰国後は、リハビリテーション医療に携わることとなり、1998年の久留米大学リハビリテーションセンターの立ち上げに関わりました。2004年大学病院リハビリテーション部教授に就任後は、産官学共同機構の代表世話人、倫理委員会委員長、2012年から整形外科主任教授に就任して、医療安全管理部部長、医療連携センター長、2013年から副病院長を務めさせていただきました。

学会関連の活動では、日本リハビリテーション医学会理事、日本整形外科学会代議員、同社会保険等委員会委員長を務め、整形外科学会からWHO ICD11 Musculoskeletal Topic Advisory Group memberに推薦いただきました。とくに整形外科学会の社会保険の委員長として、診療報酬の改定に向けた提案書の作成や、厚生労

働省とのヒアリングなどにも参加することができ、改定のプロセスを実際に経験させていただいたことは、貴重な経験となりました。

研究活動ではMayo Clinic留学中に興味を持った宇宙医学研究を帰国後に実践することとなり、2000年から無重力環境に長期滞在する宇宙飛行士に起こる運動器の廃用予防研究に取り組みました。JAXA宇宙医学生物学研究室（向井千秋前研究室長）、九州工業大学（田川善彦名誉教授、久留米大学医学部客員教授）とともに宇宙飛行士の運動器の健康維持に関する共同研究を行い、2014年に国際宇宙ステーションで独自に開発したトレーニング装置を用いて宇宙飛行士を被験者とした実験を主任研究者として実施しました。現在、パナソニック社と産学共同研究を実施して、より多くの方たちに開発したトレーニング装置を使用していただけるように取り組んでいます。2015年からは日本宇宙航空環境医学会の理事を拝命し、2017年には九州で初めて、日本宇宙航空環境医学会の年次大会を久留米大学で開催することとなりました。

さて、久留米大学は昭和3年に開学して本年度で88年となりますが、開学より一貫して、優れた医師をはじめとした医療人を輩出し、地域医療に貢献することを旨としてその歴史を歩んでまいりました。私が医師になって34年、医療を取り巻く環境や医療制度は厳しさを増すばかりで、ひと時として医療制度が安定していた時期は無かったように思います。現在、とくに大きな医療制度改革の波が押し寄せていることを実感しています。このような中、一昨年、久

留米大学病院を中心とした医療連携をより強固にするため、坂本前病院長主導により、久留米大学病院関連医療施設連絡協議会が設けられました。現在の登録医療機関は128施設で、久留米大学病院、久留米大学医療センター、そして11の久留米大学教育関連病院を含めて構成されています。平成29年度から開始予定の新専門医制度における久留米大学の専門医プログラムでは、これらの施設を中心とした病院群を形成して、全ての基本領域を網羅すべく準備しています。

福岡県の人口は505万人で医学部が4校です。これを東京都と比較すると、東京都の人口は1,335万人で医学部が13校あり、医学部1校当たりの人口は福岡県が多いことが分かります。47都道府県全体でみますと、多い順に、福岡県28位、東京都37位となります。ちなみに1位が千葉県、47位が石川県であり、これが一因となり、千葉県に新しい医学部開設の許可が下りたのかもしれませんが。福岡県では福岡都市圏でわが国でもトップクラスの人口増加傾向であり、久留米市も最近5年間は増加し続け

ています。しかしながら、担当する多くの地域で人口は減少傾向です。現在、地域医療構想が実施されようとする中、われわれ久留米大学とともに歩んできた、福岡県南のみならず、さらに広範囲にわたる関連施設とともに、今後も地域医療を支えて行く所存です。

伝統を守るには、時代に対応した迅速な医療システム改革と、時代を先取りした先進的な医療に取り組む新たな挑戦の継続が不可欠ということを実感しています。そのような病院全体の姿勢や気概が、若い医師や職員全体のモチベーションにも繋がるものと信じています。一方で、先進的な医療に挑戦するためには、しっかりとした医療安全の確立と、財務状態の安定が不可欠な要素であることは明かです。私の病院長としての責務は、この2点にあることは間違いありません。諸先輩方が進めてきた改革の流れを途切れさせることなく、久留米大学病院職員一丸となり日々汗を流して行く所存です。今後とも、久留米大学病院へのご理解と支援をよろしくお願い申し上げます。



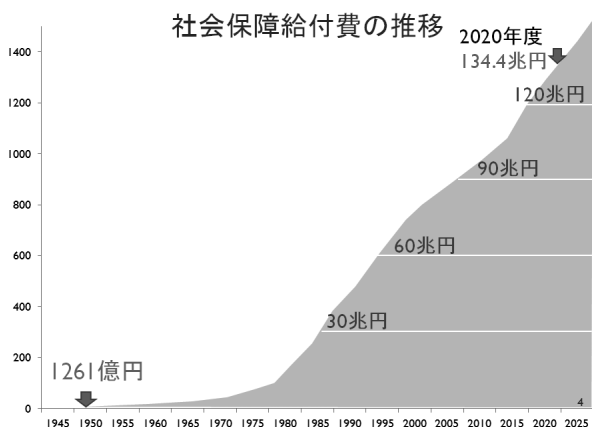
久留米大学病院鳥瞰

地域を支え、日本を支える地域包括ケア病院

社会医療法人 原土井病院 地域連携センター課長 竹内 徹
院長 小柳 左門

1. 地域包括ケアの背景

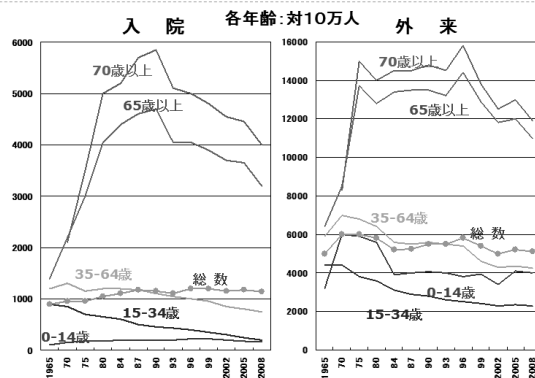
少子高齢化と低成長経済にある我が国において医療、介護にわたるサービスの需要が高まる一方、その財源は窮乏に瀕している。社会保障給付費（年金、医療、福祉その他を含む）は1950年代、1200億円程度であったが2020年には1000倍を超える130兆円に上ると予想される。特に社会保障給付費の中でも経済政策によっては改善が期待できない高齢者関連の給付費が4～5割を占め、受療率が高い高齢者の医療、介護を生産年代が支えきれなくなっている。（図－1）



図－1

よって高齢者の医療、ケアに税金や保険で賄われる「公助」、「共助」の割合は極力抑え、代わって地域による「互助」、高齢者が自身の健康を維持していく「自助」へシフトしていく必要が訴えられ、国は「地域包括ケア」を提唱するに至った。（図－2）

高齢者ほど医療が頻回に必要



図－2

2. 地域包括ケアで病院が担うこと

「自助」の分野では健康教室やメディカルフィットネスで国民の健康に対する意識の啓発、「共助」では独居高齢者の緊急入院受入れ体制の構築等、地域住民のセーフティネットづくりが考えられる。ここでは特に「公助」「共助」の分野で出来ることを考えてみたい。

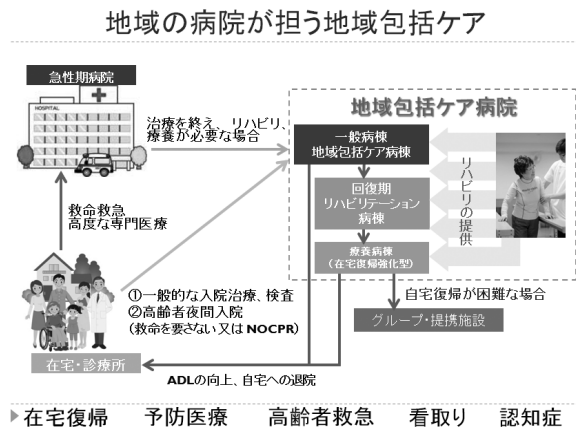
地域包括ケアシステムの目的は国民が「住み慣れた地域で最後まで暮らせること」である。地域の病院はその目的のために、地域住民、行政、医師会、在宅サービス、介護施設、在宅診療をはじめとする診療所等とネットワークを構築し下支えしながら「医療・介護費の適正化」を実現しなければならない。

国が提唱する地域包括ケアシステムでは徒歩半径30分圏内（≒中学校区）での日常診療はかかりつけ医が行い、地域の病院が連携して通常の入院診療を担う。高齢者医療が中心となる

日常診療はこのサイクルではほぼ完結する筈である。特に高齢者医療は救命救急や高度医療よりもむしろ日常診療とリハビリを提供する十分な体制を確保する事が重要である。地域の病院による早期発見、早期リハによって健康な自立高齢者が増えれば高齢者の受療率の減少（＝医療費の逓減）が期待される。

前回の診療報酬改定で地域包括ケア病棟が新設された。これに象徴される地域の Post Acute と Sub Acute 双方の役割を持つ病院が“地域包括ケア病院”として、地域住民や行政、在宅サービス、診療所（かかりつけ医）と連携し、地域の日常診療と自宅復帰支援を担うことが求められる。

出来ればこの他にも高齢者の一次救急、ターミナルケア、看取り、認知症患者の受け入れ、介護予防といった分野もカバーし、全人的な医療を担うことが望まれる。（図－3）



図－3

3. 原土井病院の取り組み

当院は現在、地域包括ケア病棟を2病棟あり、この3月からは在宅療養後方支援病院となった。福岡市東区の保健所、医師会の計画では区を4～5のエリアに分け地域包括ケアを進めていく方針であるが、それに則して、当院は東区南部を中心に行政、市民、在宅のネットワー

クを構築し、在宅医療を支えていく計画である。

具体的な取り組みとしては既に近隣在宅医と代理診療ネットワークを構築している。これは在宅医が出張その他で不在となる場合にその間、急変の可能性がある患者の情報を提供し、他の在宅医あるいは比較的マンパワーに余裕がある病院医師が代理診療を受け持つというものである。強化型在支診、在支診の要件を満たさない、或いは在宅医療をはじめたばかりという先生方でも安心して在宅医療に臨んでいただける。結果、在宅医療の裾野が拡大できると期待している。

また今後は在宅医、近隣の急性期病院との患者情報共有を進める。患者情報には病歴などの情報の他に治療に対する本人意思などを共有する。

例えば、急変時の対応で積極的医療を望まない事前意思を表明した高齢者の夜間受入れ等は当院が担い、救命治療や高度専門医療を望んでいる事が把握された場合は当院と連携している急性期病院、大学病院等で入院治療を分担してもらう。救急隊にも患者情報を共有してもらえれば患者意思と病院機能にマッチした速やかな搬送が可能となる。

「地域包括ケア病院」としてそうした取り組みを行政や近隣住民にもしっかりと利用していただけるように情報発信や定期的な意見交換の場も設ける予定である。

地域包括ケアによって「診療所は在宅医療、日常診療」、「地域包括ケア病院は日常入院診療、在宅復帰支援」、「急性期病院は救命救急、専門医療」等、明確に役割を分担していくことが日常診療の質の維持と医療費適正化の双方を実現すると考えられる。

長年にわたり高齢者医療に取り組んできた病院として地域包括ケアが地域に根差していくよう尽力していきたい。

事務が取り組む課題について

医療法人 原三信病院
事務部長

安武 義泰

近年の診療報酬改定に限らず、色々な場面でチーム医療という言葉が出てきています。

ご存知の方も多いかと思いますが、個々の患者さんに対して多職種の医療従事者が連携し治療やサポートを行い、医療の質を高めるとともに効率的な医療サービスを提供することを指して使われており、厚生労働省は今後も推進していく方針です。原三信病院では、平成8年チーム医療の目標達成のために、まず診療科単位でマネジメント組織体制を整えることから始めました。診療部長をヘッドに関係病棟・外来の看護師、薬剤師、MSW等のパラメディカル、マネージャと事務局の事務職員で構成され、診療科の病棟・外来運営、クリニカルパス、DPC、経営動態の把握、新しい取組課題／行動計画策定、その進捗報告等を検討・報告することから始めました。

平成17年には、取組課題／行動計画策定等を構築するツールとしてSWOT分析、BSCの講習会（管理者研修）を病院全体で実施し、各チーム医療をサポートしてきました。

平成18年より、診療科の取組課題／行動計画策定を報告する会がスタートしました。事前に各診療科は、チーム医療メンバー全員でSWOT分析、BSCを利用しながら、次年度の取組課題の計画を立案し、具体的な作り込みを行い、実現に向けて行動していきます。そしてPDCAサイクルを繰り返しながら次年度へと進めていきます。

原三信病院では、平成3年より年毎の事業計画を策定し、前年までの振り返り、今年度の病院の方針及び具体的な行動目標等を示し職員への周知を図っています。当初は、各部門に提示していくトップダウンの形をとっていましたが、チーム医療による取組課題／行動計画が充実するに従い、病院事業計画は、各診療科の内容を組み入れたものへと変わってきています。チーム医療が組織体制として着実に成長していると思います。

横断的な組織としてのチーム医療は以上のようなのですが、縦断的な組織として事務について述べていきたいと思います。

平成9年より事務部においても、病院事業計画を受けて、各課が年度初めに課別の取組課題を策定しています。その内容は、診療報酬改定で新たに取組むもの、病院事業計画には挙げられていないが、各課で今年度の目標と捉え、実行していこうと考えているもの等さまざまです。事務の基本スタンスは「病院の方針を実現する部門である」ということです。そのためには、まず専門知識の質の向上を図り、そしてバランス（経営）感覚を持った業務への取組を行い、その上で組織のコーディネートが出来る人材を育成していくことが大切です。このような課別取組の活動を続けてきて、徐々にではありますが、実現できることも出てきていると感じています。

しかし、病院事業計画を実現していくことは大

切なことでありますが、そこからもう一歩前に進んでいかなければならない時期に来ていると思います。今迄は、提示されたことを迅速、確実に行っていくことが事務の役割であり、それが存在意義でした。言葉を替えて言うなら「受け身型」の存在であったと思います。少子高齢が進む中、厚生労働省も 2025 年に向けて医療・介護等の垣根を超えて種々の施策を打ち出しています。変化のスピードが、以前と比べて恐ろしく早いものになってきています。これからの事務は提示されたことを実行するだけでなく、自ら提案していく「能動型」に転換していか

ければ、成長はなく、その存在意義も小さなものとなってしまいます。時間はかかるかもしれませんが、各診療科のチーム医療と同じ様に、病院事業計画に組込まれるような行動計画の立案が、出来るようにしていきたいと思っています。

そのためには、過去・現在を顧みて更に未来を見据えて考え、そして行動が出来る人材を一人でも多く育成していくことが、大切なことだと考えます。院内・院外での研修をはじめ多くの自己研鑽ができ、人材が育つ環境を作っていくことを進めていきたいと考えています。

病院管理

事務部長就任のご挨拶

国家公務員共済組合連合会
浜の町病院 事務部長

宮本 清

平成 28 年 4 月 1 日付で、国家公務員共済組合連合会浜の町病院の事務部長に就任いたしました宮本清と申します。就任と同時に、福岡県病院協会の経営管理委員会委員も務めさせていただくことになりました。

微力ではありますが精一杯務めさせていただきますので、前大石事務部長同様にご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願いします。

改めまして私が務めます「浜の町病院」の紹介をさせていただきますと、当病院は昭和 26 年聖福病院「浜の町診療所」として開設され、昭和 27 年非現業共済組合連合会（現国家公務員共済組合連合会）浜の町病院として独立し現在に至っています。永きにわたり舞鶴の地で診療が行われてきましたが、患者様と職員の永年

の夢が実現し、平成 25 年 10 月に長浜の地に移転し、地上 10 階、地下 1 階、免震構造とオール電化を備えた災害にも強い建物に生まれ変わり 2 年 6 か月が経ちました。

当病院は、国家公務員共済組合連合会が運営している病院ですが、現在では地域医療支援病院・福岡県指定がん診療拠点病院に認定され、福岡市内における地域中核病院の一つとして急性期医療を提供しており、これまでに培われてきた病院の理念である「病める人の身になって心のこもった最良の医療を提供します」を継続して実践することで、これまで以上の専門性の高い先進医療、良質な医療、個々の患者さんにとって満足度の高い医療を提供していくことを目指しているところです。

当病院の名称である「浜の町」は、病院開設時の地名に由来するものでしたが、都市化に伴い少し内陸に位置することとなり海をイメージできなくなっていました。新病院は港に近く福岡市魚市場にも近接しているなど、まさに浜の町病院にふさわしい場所です。今後歴史を重ねることにより地域に根差し当病院を核とした新たな「浜の町（街）」が形成されることを期待しているところです。

さて、病院を巡る環境を見てみますと、少子高齢化の進展に伴い、医療の在り方が変革していく中で、将来を見据えた経営を病院側に自ら選択することが求められています。自病院の得意とする分野を伸ばすのか、新規分野にチャレンジするのか、それとも効率化を図りコンパクト化を進めるのか、それぞれの病院が模索されていることと思います。

私は、これまでの経験の中で、物事を評価するとき、または比較するとき、多くの場合にそ

の客観性を表すため数字に置き換えて判断すべきではないかと考えていました。しかし、病院の事務に就きその経験が増すにつれて、病院の評価は、各々の病院が持っている風土、目指す方向性や機能によって全く違ったものであり、単に数字だけで病院を評価・比較することではできないと痛感しているところです。

自らの病院を十分に理解し目指す方向性を見極めて、医療体制の整備、人材確保、職員の負担軽減そして患者満足度の向上など、多くの課題に取り組んでいくことが必要だと思っています。

事務部長に就任したばかりで多くの課題に直面すると、自らの勉強不足、経験不足を実感させられますが、病院には多くのスタッフが居り多くの知恵が集結する場でもあります。職員の皆様と力をあわせて、病院が目指す理念の実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



一番大切な思いやり…
「安心・安全・清潔」

TAIYO 太陽セランドグループ
太陽セランドホールディングス株式会社
〒812-0044 福岡市博多区千代 1-1-5
TEL 092-641-2578 FAX 092-641-5778

太陽セランド株式会社
〒826-0042 福岡県田川市大字川宮 1200
TEL 0947-44-1847 FAX 0947-44-5805

代表取締役 社長 **中島 健介**

太陽セランドグループ会社
医療関連
サービスマーク認定

太陽セランドホールディングス株式会社	太陽セランド株式会社	太陽インダストリー株式会社	太陽シルバーサービス株式会社
太陽ホテルリネン株式会社	ジャパンエアマット株式会社	株式会社北九州シーアイシー研究所	株式会社メディカルナビゲーション
株式会社セランド	株式会社サンウエックス	株式会社おたふく屋	

お問い合わせ TEL 0947-44-1847 Mail info@taiyoseland.co.jp Web <http://www.taiyoseland.co.jp>

心に残る言葉 ～その2 なにげない一言

国立病院機構 九州医療センター 名誉院長 朔 元 則
学校法人原学園 原看護専門学校 学 校 長

心の琴線に触れる

先月の Letter 「心に残る言葉～その1 Excelsior」を校了した3月3日の昼下がりのことである。医局でたまたま手にした西日本新聞朝刊のこだま欄に掲載されていた今年44歳になられる八女市在住の管理栄養士の方の投稿が目にとまった。それは自分が国家試験に落第してひどく落ち込んでいた時、勤務していた病院の院長から「貴女の人生で足踏みをしないといけない時があったんよ。それが『今』だったんだよ」と慰められたことが22年の歳月が流れた今も忘れられないという内容の文章であった。院長のこの一言がなかったら、自分は仕事を辞めていたであろうし、現在の自分もない。「自分の人生を決めた一言はこの言葉であった」とその投稿文では結論づけてあった。

「心の琴線に触れる」という言葉がある。院長のこの一言は、国家試験に落ちてひどく傷ついていた若い女性の心の琴線に触れたのであろう。しかしここで特筆しておかねばならない大事なことは、この院長の言葉は前もって考え抜かれて準備されていた言葉ではないであろうということである。院長（普段から思索的で、尊敬されていた有徳の人物であったとは思いますが…）のなにげない一言がくだんの女性にとっては一生を左右した大切な言葉になったのである。言葉を発信した側の立場に立ってみれば殆ど記憶に残っていない一言であろう。心の琴線に揺れる言葉、それは名言集に収載されているような言葉だけではないのである。いやむしろそれは「何げない一言」の場合の方が多いのかも知れない。

コンニチハ、アリガトウ、ゴメンナサイ

今月の Letter を執筆するに当たって、妻に「心

に残る言葉は？」と聞いてみると、神戸海星女学院高等学校在学中にシスター・ネリア（村田敏子先生）から聞いた言葉が忘れられないと言う。それは「将来母親になったら、今日は、有難う、御免なさい、がすぐ言えるように子供を育てなさい…」という言葉であった。確かにきちんと挨拶が出来るように子供を教育することは育児の基本であると思うが、実践するとなると大変難しいようである。「ようである」とは極めて曖昧な表現であるが、子育てに関してはほぼ100%妻に丸投げしていた前歴を持つ私としては、このように表現する以外に方法がない。

このシスター・ネリアの言葉がどれだけ実践されたかは別問題として、我が家ではこの言葉が大きな影響を持ち続けたことだけは確実である。私の長男も長女も小学校は福岡海星小学校で学んだのであるが（長男は5年生から編入学）、子供達の進路を選択するに当たって、このネリア様（妻はいつもこう呼んでいた）の言葉が少なからず影響していたと私は思っている。そして今春、孫娘（長女の長女）も海星小学校へ入学することになった。どうやらこの言葉は我が家にとっては3代に亘って影響を及ぼした言葉になるのである。

私達にとって大変嬉しく、また幸運だったことは、1968年に海星女子学院附属小学校が福岡の地にも創立されることになり、村田敏子先生がその立ち上げのために院長として福岡へ赴任されてこられたことである。私も一度だけお目にかかった事があるが、とても明るく凛としたシスターらしからぬ（私の中にある既成概念に過ぎないのかも知れないが）実業家のような雰囲気的女性であった。妻は子供達が海星小学校に入学した後は時々ネリア様とお会いする機会があり、ある時高校生の時に聞いていまだに心に深く残っている先

生のこの言葉について語ったそうである。返ってきたのは、「あら私そんな事お話ししましたかしら…」という御返事であった。

二外科で通用するなら…

「なにげない一言」ということに焦点を絞って私自身の経験を語るとすれば、1974年（昭和49年）9月11日水曜日の午後、九大第二外科教授室における恩師井口潔教授の一言に尽きる。

この日開催された教授会で私の学位論文が正式に合格し（予備審査は原稿が印刷されていない段階で行われ、この日の教授会での審査は全く形式的なものなのであるが、審査を受けるという建前上福岡に居なければならない）、私は翌日出発予定のSweden Lund 大学留学の挨拶のため教授室へ出向いた。いまでも昔も変わらない姿と思うが、助手の立場で教授室を訪問するのは大変緊張するものである

直立不動で学位論文合格の御礼と明日福岡を出発してSwedenに向かう旨申し上げる私に、井口教授はポツンとただ一言「二外科で通用するなら、世界中どこかの外科教室へ行ったらって通用するから心配せんでいいよ。安心して行っておいで…」という言葉が発せられた。普段教授室ではとても厳しい井口先生から、このような言葉が発せられるとは全く予想だにしていなかった私にとっては、まさにビックリボンの一言であった。

英文論文は数篇書いてはいたが、英会話力にも研究遂行能力にも全く自身がなかった私にとって、この井口教授の一言は大きな力となった。何か急に緊張が解けてリラックスした気分になれたことが、40年以上が経過した今でもまざまざと思い出される。その後外国留学に向かう後輩達の送別会等で挨拶を受ける度に、私はこの時の井口教授の言葉（もちろん、少しバージョンを変えて）で応じるようにしている。

昨年の10月21日のことである。井口先生の94歳の誕生日をお祝いする会でこの忘れられない言葉のことを先生に申し上げた。返って来たのは当然のことながら「そんな事喋ったなんて全く覚えとらんよ…」という御返事であった。

心を傷しむるは

先月のLetterを読んでいただいた山内裕雄順天堂大学名誉教授、九大医学部の同級生木村専太郎クリニック院長の御二人からも、それぞれの心に残る言葉についてのメールを頂戴した。

山内先生は旧制高校時代に先生から言われた「いろいろ深く勉強せよ。そして堂々と私は知りませんと言えるようになれ…」という言葉が心に残っているということである。山内先生は「知りませんと言える背後には猛烈な勉強があるべきだ。逆にたいした勉強もしないで知ったかぶりをしてはいけない」ということをこの先生の言葉から学んだと述べておられる。

木村専太郎君は小学校卒業時の寄せ書きで、先生が書いてくれた「自分に嘘をつかない人になって下さい」という言葉が今も心に残っていると述べている。この言葉は小学生にも理解できる易しい言葉ではあるが、その内容はとても深い。いずれも多感な青少年の心の琴線に触れる素晴らしい言葉であったと思うが、発信者にとってはなにげない一言であったのではないだろうか…。

なにげない一言が人生の大きな糧になった物語ばかりを書き連ねて来たが、これと同じくらい、いやもっと数多く、なにげない一言で心を傷つけられたという物語もあると私は思っている。しかし心を傷つけた言葉の多くは、琴線に触れた素晴らしい一言とは違って、心を傷つけられた個人の胸の内に深く深く沈潜し続けているだけで語られることもない。親子の間でも、夫婦の間でもそのようなことは存在すると思っていて間違いはないであろう。

動物学的に考えれば、ヒトという動物は賛辞よりも警告を強く記憶するようにプログラミングされているのだそう。何故なら、何時野生動物に襲われるか判らない危険が一杯の1万年前は、その方が生存に適していたからである。

身を破るよりも 心を傷しむるは
人を害ふ事なほ甚だし

と徒然草にもある。心にしかと留め置くべきことであろう。



抑制廃止福岡宣言

社会医療法人 原土井病院
看護部長

関 和雄

いきなりですが、「抑制廃止福岡宣言」を御存知でしょうか？ 原土井病院看護部の特徴の一つですので、少し紹介をさせていただきます。「抑制廃止福岡宣言」は1998.10.30に行なわれもう18年目になります。振り返りますと福岡県療養病床協会（現、福岡県慢性期ケア協会）の看護部長会では、介護保険開始以前より高齢者ケアの質を高めるためにMDS（ケアプランのためのアセスメント技法）の勉強会を定期的に行なっていました。その折、上川病院（八王子）の「縛らない看護」に出会い、抑制なしでケアしている現場を見て「目からウロコ」といった衝撃を受けられたそうです。当時、抑制は当たり前の行為で看護者は多少の罪悪感を持ちながらも、抑制に代わるケアを考えるわけでもなく漫然と抑制行為を行っていました。その後、抑制廃止の活動を始められたそうですが、単なる業務改善というようなものでなく、自分達の常識を根底から覆す革命の様なもので、看護職だけでなく病院全体にも相当の理解と覚悟が求められた一大事業だったそうです。そして1998年（H10）10病院の看護の代表者の方が集まり抑制廃止宣言をされました。これが福岡宣言と呼ばれるもので、その後2000年に始まった介護保険制度の中で身体拘束が禁止となった基になる活動となっています。その後も「人」とは何か「人の尊厳」とは「生きる」とは、等をテーマに抑制廃止の勉強会を続けられ「患者さんの日常生活が安全で安楽であるため現場の介護や看護の質を上げる事が重要である」と部長会の名前を「抑制廃止とケアの質を高める会」に変更され、① 抑制に関する勉強会。（定例会）と② 介護職による研究発表会。（ケアスタッフ研

修会）を開催して来られ、現在も参加者や内容など少しずつ変化していますが継続されています。今年のケアスタッフ研修会は16回目を迎えます。

抑制廃止福岡宣言 老人に、自由と誇りと安らぎを

- ① 縛る、抑制をやめることを決意し、実行する
- ② 抑制とは何かを考える
- ③ 継続するために、院内を公開する
- ④ 抑制を限りなくゼロに近づける
- ⑤ 抑制廃止運動を、全国的に広げて行く

1998. 10. 30

この宣言文に当時の方々は、どんな思いを込められていたのでしょうか？

老人に、自由と誇りと安らぎを

20年前「老人」のイメージは今とは全く違い、日が当たらない部分が多かった。抑制という行為が看護行為としてまかり通っていた事自体がそれらを表している。

抑制をしないというケアを覚悟した時、今までのケアを振り返り、申し訳ない気持ちでいっぱいになった。「自由、誇り、安らぎ」という言葉は、当時の老人に不足していたものであり、宣言をする時に、心から患者さんの幸せを願い、苦痛からの解放を目指し、宣言の理念にした。

① 縛る、抑制をやめることを決意し、実行する

「縛る」という言葉に多少違和感もあるが、人が人の自由な行動を奪う「縛る」という行為

から目を逸らさない意味で、あえて表現することで看護、介護する私達の行為の戒めとする事にした。

「決意し、実行する」これは私達の決意表明である。宣言とは周囲に知らせると同時に、自分達にそれを課す事になる。実行する決意を持って一番に表現した。

② 抑制とは何かを考える

「抑制」は医療者側の視点に立った言葉で都合のよい表現ではないかと感じた。「抑制」と言う一言で済ましてはいけない様々な事象や、事例を考えていく事にした。

③ 継続するために、院内を公開する

宣言当時、病院は家族の面会以外は部外者の立ち入りを許さない印象があった。しかし、抑制廃止を宣言し、その活動を他者に見てもらうために院内を公開する事とした。第三者の客観的な評価に晒されることで意識も変わり、技術も向上すると信じた。

④ 抑制を限りなくゼロに近づける

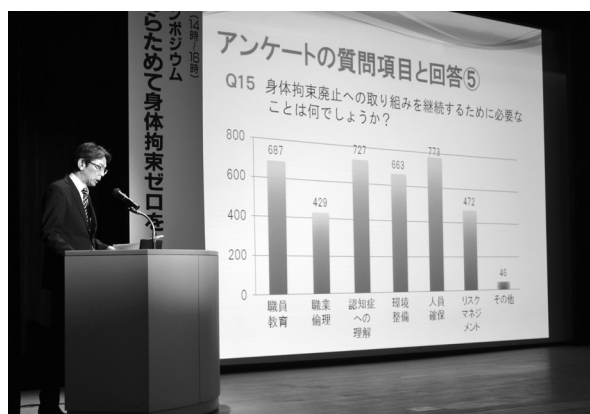
「抑制をゼロ」にするのが目標では無い。色々な場面で抑制が必要な時もある。大切なのは「抑制をしない」というのが前提であり、抑制をするなら抑制までのプロセスを、抑制を施行したら外すプロセスを、と常に「しないために」「はずすために」と考えていくための目標である。

⑤ 抑制廃止運動を、全国的に広げていく

一人でも多くの患者さんに安らぎと、現場職員の認識が変化するようにとの願いをこめて最後をしめることにした。

以上の内容は当時の諸先輩方に直接お伺いしたものです。後に続く私達は宣言文の言葉の中にはこの様な諸先輩方の思いがある事を知って抑制廃止を継続させていかなければいけません。

① 定例会の様子



定例会は偶数月の第2土曜の午後、計6回集まり年間のテーマにそってグループワークです。

② ケアスタッフ研修会



介護職による介護職だけの研究発表会です。毎年6月の第1土曜天神の明治安田生命ホールで行っています。介護技術に関する講演会の後5～8題の発表があります。

以上簡単でしたが、抑制廃止福岡宣言についての説明でした。

最後に、活動内容は「福岡県慢性期ケア協会」もしくは「抑制廃止とケアの質を高める会」で検索頂くと定例会の会議録やケアスタッフ研修会が動画で見える事が出来るようになっていきます。是非一度ご覧いただき抑制廃止活動を考えてみて頂くと幸いです。

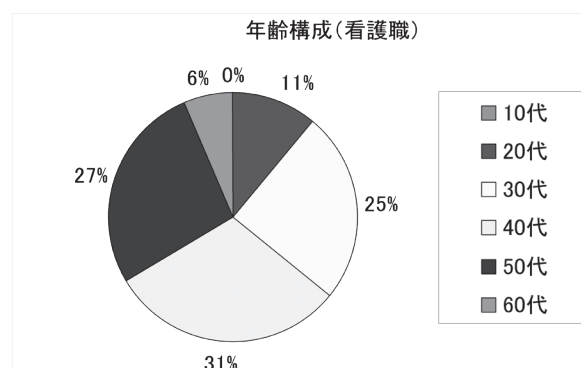


療養型病院における 職員教育の工夫と課題

医療法人相生会 金隈病院
看護部長

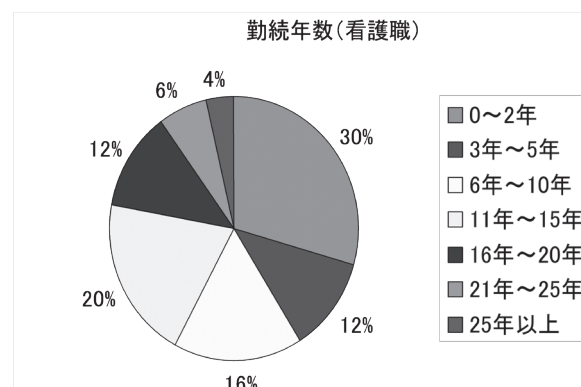
瀬戸口 文美江

看護職員の教育は、新人からキャリアまで、その施設の看護の質を保证するために看護管理者が取り組んで行かなければならない大きな役割のひとつです。特に一般病院と違って、看護職と介護職が同数配置されている療養型病院では、職種による教育の背景が異なり、教育内容を企画する上での難しさがあります。当院における職員の現状を紹介し教育における工夫と課題を述べます。



グラフ 1

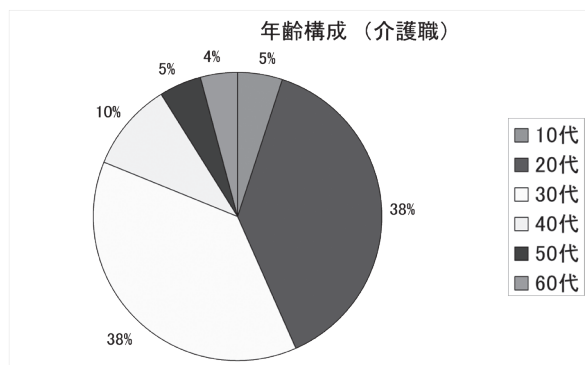
当院は、全ての病床が療養型の病院で、病床は564床、常設の診療科は、内科・老年精神科・リハビリ科・歯科です。併設施設として認知症の専門入院施設の老健「楽陽園」が100床あります。病院の看護単位は8個の医療療養病棟（472床）と2個の介護療養病棟（92床）があります。医療療養病棟の内、在宅復帰機能強化加算病棟が2個病棟あり、介護病棟は92床全て療養機能強化型Aです。



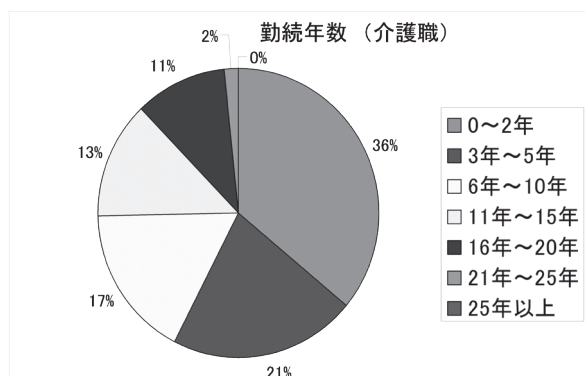
グラフ 2

看護要員は、4月現在で看護職173名、介護職124名、その他クラークやPSW18名、計315名を配置しています。看護職の内訳は看護師が66%115名、准看護師が34%で58名です。看護職の年齢構成は、20代が11%、30代・40代が56%で半数を占め、さらに50代が27%そして60歳過ぎた方も6%います。平均年齢は、44歳です。当院での勤務年数は、2年以内が30%で、3分の1は2年以内に入れ替わっている状況です。3年目から5年目が12%、6年目から10年目が16%、10年目から15年目が20%です。よって5年以上15年の中堅が36%で5年を過ぎると定着している感があります。

次に介護職の内訳は52%半数以上の65名が、介護福祉士のライセンスを持っています。残り48%59名は看護助手として入職したもので、18歳から60歳代までと年齢幅が広がっています。年齢構成は、43%が18歳から20代の若い人で30代をあわせると全体の80%を超えます。介護職の平均年齢は、看護職の44歳に比べると若く、32歳となっています。勤務年数も2年以内が36%と最も多く、3分の1以上を占めています。



グラフ 3



グラフ 4

この状況から、当院の看護要員のうち、看護職も介護職も入職して2年目以内の職員が3分の1を占めていることがお分かりいただけたと思います。そこで2年目以内の看護職と介護職の状況を、さらに詳しく見てみると、看護職は、経験者が82%と多く、介護職は未経験者が72%と多くなっています。ここに着眼して、職員教育の工夫が必要になります。入職時の教育のポイントとして、看護職は経験者並びにブランクのある人が多く、再教育が中心となります。逆に介護職は、病院での経験が全くなく、さらに介護にまったく縁遠い若者が多いことから、医療人としての倫理、患者対応技術そして基本的な介護技術の演習が重要となってきます。

そこで、看護職の入職時の再教育は、当院の特徴でもある老年看護・認知症看護の理解を含みながら、指導スケジュール表を作成し、老年看護に必要な技術の演習を重ね、老年看護への

適応を図ります。又、夜勤業務も、日勤帯における業務が理解できてから、入職後3ヶ月経過して病棟指導者が評価し、夜勤業務に入るようにしています。安心して夜間の業務を任せられない場合は、勤務形態変更願いを提出し、夜勤業務からはずすこともあります。

次に介護職の入職時の教育は、できるだけ早い時期に、患者体験や老人体験を始め、高齢者の理解と人権擁護、事故防止・感染防止の手順を指導していきます。

介護福祉士のライセンスを持っている者は、患者対応の技術を習得していますが、高卒者などは、全く老人と接した経験さえない者もいます。また核家族化した中での育成環境で、組織の中での会話のありようや責任の取りかた、さらには高齢者に対する対応の未熟さが、トラブルの一因を作っていることもあります。

指導のポイントとしては、

- ① 倫理観の醸成が重要となります。……命の大切さ・うそをつかない。隠し事をしないなど人としての有様も指導のひとつです。
- ② インシデント報告の活用はみんなで考える機会を増やす 事例を通して根拠を示すことを重視しています。
- ③ 情報共有シートの活用では介護職による情報シートとして、ケア計画書の統一をはかることを実施しています。介護職は、日常生活を中心に援助をしていきますので、今、どのような状態か ADL 的に問題のあるものはどこか、また、それに対してどのようにするのか具体的にケア計画に立案したり、絵を描いて指し示したりと、医療的知識が十分でなくても理解できるように一つ一つ記入しているものを確認していくことに重点を置いています。
- ④ コミュニケーションのポイントとして、なかなか人と話をすることが苦手な若い

方が多いため、まずは【挨拶の励行】を重視し、職員間、そして、患者並びに家族へ気持ちのよい挨拶ができるように、毎月の朝礼で挨拶の励行を呼びかけています。さらに認知症を合併している患者へのコミュニケーションとしては、視線を捕らえて相手の表情をきちんと見て言葉かけをするよう認知症患者とのかわり方も指導しているところです。

今後、療養病院の課題として患者の状況は、ますます認知症を併発し、要介護度が高く全介助で、さらにラインによる栄養管理の患者が多くなっていきます。患者とのコミュニケーションが取りにくいと業務優先になり、押し付けの看護や介護をしてしまいがちです。患者の意思を確認しない状況が発生してきます。そこで

は、たえず、職員の意識に働きかけることが重要となります。看護・介護をうける相手が、自分の行為で安心して、安楽に療養できているのか問う気持ちが日常的に必要になります。一般病院なら患者自身が拒否できることも当院の患者は、黙って受け入れるしかないのです。常に相手の身になって考えることが新人だけでなく、全職員の教育の根底をなすものと考えています。

今後は地域包括ケアシステムの中の当院の役割をどのように構築し、看護職・介護職が何をなしていくか？ 地域との連携も含め、どのようなかわりが必要になるのか？ そこに視野を置きながら、必要とされる看護・介護職員を育てて行きたいと考えます。

投稿募集

ほすぴたる誌読者の皆さんの作品を募集します。

写真、エッセイ、俳句、和歌、ニュースなどふるってご投稿ください。FAX・Eメールで募集いたします。多数の応募をお待ちしています。

投稿規定

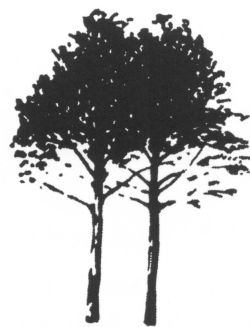
内 容 ご随意
字 数 標題などを含んで1頁 1,300 字程度
又は 2 頁 2,900 字程度
*ご近影 1 枚も併せてお願いします

送 付 先

〒 812-0016
福岡市博多区博多駅南 2 丁目 9 番 30 号
福岡メディカルセンター 2F

公益社団法人 福岡県病院協会

TEL 092-436-2312
FAX 092-436-2313
E-mail : fukukoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp



清水寺は崖の上

元 医療法人 誠十字病院 安田 宏一
平衡神経科 医師

京都の清水寺に行くと、多くの人は本堂の横を抜けて、舞台へ向かう。そうして舞台の端まで行き、手すりに寄りかかって、京都の街並みを眺める。その人たちにとっては、清水の舞台は展望台なのである。しかし舞台は、そのために作られたものではない。

清水寺から、舞台を取り除いた風景を、想像してみるとよい。その本堂は、谷の崖っぶちに建っているのである。舞台がなければ、恐ろしくて下を覗くことなど、出来ないかもしれない。清水寺は、京都東山三十六峰のひとつ音羽山の中腹にある。狭い場所なので、山を削ったり、石垣で盛り土をして、なんとか平地を確保している。それでも、寺の境内としては十分ではない。本堂の正面には、広い空間が必要である。大きな法要がある。雅楽や能の奉納もあるだろう。信徒が集団でお参りすることもある。しかし清水寺では、山側にその余地はない。そこで考えたのが、本堂を崖っぶちに

建て、その同じ平面に木造の舞台を作り、谷へ張り出すことであった。その舞台を、139本の檜の丸太で支え、谷が一段落した地面に固定する。

非常に大胆な構想だが、これが京都の民衆に受けた。舞台を支える木組みが、山肌に映えて美しい。また、舞台からの眺めも、抜群である。京都のあまたの寺のなかで、清水寺が最も親しまれる寺になった。清水寺には、欠点が二つあった。ひとつは、境内が狭いことだが、舞台を作ることで解決した。あとのひとつは、山の中腹にあるため、坂を上らねばならないことである。これも参詣人が増えると、清水坂の両側に、茶店や土産物の店ができてきた。それらの店を覗いていると、いつのまにか寺に着いてしまうのである。

これらのことは、最初から意図したことではなかった。だが、京都の民衆に偶然アピールして、欠点がむしろ利点になったのである。



清水寺「花洛名勝図絵」

人体旅行記

踵（その一）

国立病院機構 九州医療センター 吉住 秀之
医療情報管理センター 部長

かかとの所にある骨は「踵骨」といいますが、中国の医学書では明代は京骨、清代は跟骨という名前で呼ばれていて、杉田玄白が『解体新書』を著した際に、踵骨という解剖用語が初めて登場します。ラテン語名は Os calcaneus で calx（かかと）に由来します。語源を同じくする単語として“calcar”（^{けづめ}蹴爪）があります。蹴爪は、雄鶏などの脚にあり攻撃に使われるのがよく知られていますが、私たち哺乳類の祖先でもあるカモノハシにも蹴爪があります。この蹴爪は雄しかもたないのですが、激しい疼痛や血圧低下を起こす毒液も分泌することができるという恐るべき攻撃兵器で、最近その生理活性をもつペプチドが複数単離されています^{*1}。これらのペプチドは、多くの哺乳類がもつC型ナトリウム利尿ペプチド（CNP）の部分断片およびプレ配列にあたるものです。最初脳内で発見された^{*2} CNP がカモノハシの蹴爪の毒液中にもあるというのは、進化における生理活性物質の使用のされ方からも興味深いことです。

踵というのは攻めどころとしても重要なポイントのようで、特に二本足で歩行する人間にとっては、弱点でもあります。柔道でも相手の踵を片手でとり、そのまま後ろへ押し倒す技があり、踵^{きびすがえし}返と呼ばれています。踵が弱点になっている話として、ギリシア神話に登場するタロースという青銅の巨人の話があります。この巨人は、ヘーパイストスによって作られ、日に三度クレタ島を巡回警備していましたが、アルゴナウタイ^{*3}がこの島に寄港した際に急所である踵の釘を抜かれ、全身の神血が流れ出し死んだと語られています。

それで御神の不死なる血汐が流れて出た、^{イコール}神血とて、さきわいたもう神々の体の内をめぐ

るものである。

というのも彼らは穀類を食まず、^は燦^{きら}がな酒も飲まれないので、それゆえ血汐ももたず、不死の身と呼ばれたもうのだ^{*4}。

^{イコール}“神血”というものについては、神話学者のケレーニイがこう解説しています。

イコールは赤い血でなく、脱脂乳、乳清、あるいは体液中の水気の多い成分にみられるような、いくらか青白い液体のことである。これらの液体を表すために、ギリシアの医師たちは彼らの著述にこの単語を利用している。アリストテレースは産婦の羊水を述べるのに、この言葉を使っている〔『動物誌』586b32〕^{*5}。

血液であれ、神血であれ、今も昔も脱水（hypovolemia）は致命的です。

*1 M Kita et al.: Duck-Billed Platypus Venome Peptides Induce Ca²⁺ Influx in Nuerobalstoma Cells J Am Chem Soc 131:18038-18039, 2009

*2 Sudoh T et al.: C-type natriuretic peptide (CNP): A new member of natriuretic peptide family identified in porcine brain. Biochem Biophys Res Commun 168: 863-870, 1990.

*3 アルゴの船員を意味し、その船で航海をしたギリシア神話に登場する英雄たちの総称。

*4 『イーリアス』 第5書 339-342行、ホメロス、呉茂一訳、岩波文庫

*5 『ディオニュースス』 p59、カール・ケレーニイ、岡田素之訳、白水社

『私の看護師 ヒストリーと 老後のお願い』

医療法人社団 豊和会
豊前病院
デイケアセンター部長（看護師）

たのうえ よねいち
田上 米一

私は福岡と大分の県境にある豊前市の精神病院に勤務している。田舎ではあるが、海と川と山に恵まれた、とっても空気の研ぎ澄まされた環境で仕事ができている。平成27年には病院の横に東九州高速道路のICができ、交通量が一気に増加する状況になっている。

ところで、「還暦」…これまで他人事のように思っていた言葉が自分の目の前に見えてきた。それと同時に看護職を始めて40年が近づこうとしている。これまでの人生や看護を振り返り、さらに、近づいてきた、看護を受ける側としての自分を考えてみたい。

高校卒業時はオイルショックの時代で就職先がない中、設備会社に就職した。現場で汗にまみれ、多種に渡る仕事で良い経験をさせて頂いた。その後、単に人から仕事内容を聞かれた時、驚かれる職種に就きたいといった不純な動機で、その頃は希少であった男性看護師の道を選んだ。その頃の男性職員の需要は精神科病院が主流で、病院に働きながら准看護学科に通うことができた。卒業時、看護学科に進学したかったが、当時、近くの国立病院は全寮制で男性の受け入れがなく進学を断念した。5年間の准看護師で仕事をする中で、家庭を持ち子供にも恵まれた。一度は諦めた看護学科を目指すきっかけは職場の先輩の「これからの医療は看護師の免許が必要」の一言と家族の協力で、子持ちの看護学生として片道2時間程の進学の道を歩み始めた。幸いに看護学校の男子同級生はその当時としては多い7名であった。当時の

母性実習は精神科実習に置き換えられていた。同級生の男子も卒業と同時に保健士への進学希望を見せたものの、ここでは助産婦免許が障害となり男性の保健士の道は閉ざされていた。今の看護教育を考えたら信じられないようなジェンダーが存在していた中で、昭和時代の最後に看護師国家試験合格し、順調に看護師としてスタートを切った。ここで、一旦終息を付きそうな、流れではあるが、まだまだ、人生の波は起こっていった。管理職として看護師を続け、23年勤めた頃、突然、勤務先が廃院となり患者さんの転院に苦慮する日々を迎えた。ふと気がつくと自分の仕事探しが残っており、家族を支え、看護の仕事がやりたく就職先を探しまくった。幸いに、人前で講義をする機会に恵まれていたためか、卒業した看護学校に恩師の紹介で看護教員として就職ができた。しかし、看護教員の免許を取得したものの、臨床での仕事をあきらめきれず、縁あって今の病院に勤務させていただいている。

これまでの転職は、日々における人との関わりの中から生まれた人間関係が基本となり、その中で繋がった人々の恩のお陰である。この年になり、この事が心から理解できているように思う。もう一方で忘れてはならないのは、ここを病む方々と苦しい時も、楽しい時も一緒に過ごすことが出来たからである。これらの事には感謝の気持ちしかない。

ところで、社会にはジェンダーや偏見にしろ、理解しがたいことが多くある中で、今後、私を含めて年老いていく者達にとって、看護師が高齢者やこころの病を持つ方に対して、どのように看護するのか気になるころではある。病む者の痛み、特にこころの痛みを受けとれず、訴えることを全否定したうえに敵対した存在として捉えてしまった結果、言葉の虐待や高圧的な指示・指導などが普通に行われるような、弱い立場の者が恐怖におびえる医療現場だけにはして欲しくない。まして、過去の精神科医療の苦い経験を再び起さないことを願ってやまない。とは言うものの、その責任は少なからず看護の先人である我々にあるのかも知れない。「先輩の後姿を見て学んだから…

先輩から教えてもらったから…あの先輩に憧れて…あの先輩の様になりたい…」など言われた事はないし、おこがましくも教育（共育）したなども簡単には言えないが、後輩の皆様には、「人として」「医療者として、どうあるべきか」「何を求められ、何を必要とされ、何を援助・支援すればよいのか」「そのためには、どのように行動するのか」などの視点を持った看護を実践してもらいたいと切に願っている。相手も自分も人である。人であるからには人との関わりが基本になる。人を大事にする人間性を持っている事が看護者として必要で、そこに専門性である科学的根拠（看護の根拠）を加えられるかが看護師として認知されるかどうかであると思う。医療者サイド中心の業務や考え方の医療・看護は存在しないことを理解してもらいたい。医療の主役は医療者ではなく患者さんであり、対象がどうなれば地域に戻り、これまでの生活に近づけるのかを考えた医療を展開して欲しいものである。

などなど、これから看護を担っていく後輩諸君

に、お願い事はまだまだ山のようにあるが…ただ、今後お世話になる我が身としては、優しい笑顔で看護してもらえると、辛い病にも向き合えるかもしれない。まして、治療計画・看護計画の提示をされると、調子に乗り看護師魂や看護教員精神を発揮して、きっと、病氣と向きあい、付き合おうとするだろう…笑顔で傍に居てくれ、話してくれる。ただ、それだけで良いので…と思ったけど、もう少し。もし（たぶん）寝たきりでお世話になる時があれば、食事の時はゆっくり口に運んでくれたら咳こまないですむし、年を重ねると身体に自信（？）がないし、恥ずかしいので入浴介助もおむつ交換もちょっとだけ配慮して欲しいな…後輩の皆様、なにとぞ宜しくお願いします。

* 以前、看護師は看護婦(女性)と看護師(男性)に区別されていましたが、2001年の保助看法の改定で2002年から名称が看護師に統一されました。そのため、士と師の使い分けをしています。

おもいやりの心でサポートします

県内精神科病院の寝具及び下着類の洗濯・貸与・販売・補修業務一切
他にグループ保険・病院賠償責任保険等の各種保険

福岡県精神科病院協同組合

理事長 富松 愈

〒810-0005 福岡市中央区清川三丁目14番20号 2F
TEL092-521-0690/FAX092-524-4632

九州一円の医療機関経営をサポートする
福岡県精神科病院協同組合100%出資会社

有限会社 DMS (ドリーム・メディカル・サービス)

〒810-0005 福岡市中央区清川三丁目14番20号 3F
TEL092-525-7666・7667/FAX092-525-7668

●福岡県私設病院協会・福岡県医療法人協会プラザ

平成 28 年 3 月福岡県私設病院協会の動き

◎理事会

日 時 3月8日（火）午後4時～

場 所 会議室

議 題

1. 会長挨拶
2. 協議事項
 - (1) 会員異動について
 - (2) 研修会について
 - (3) 地域医療構想策定について
 - ア) 第2回福岡県地域医療構想策定会議開催状況について
 - イ) 福岡県医師会病院委員会への答申（案）について
 - ウ) 今後の対応について
 - (4) 第3回（平成28年度）定時総会開催（案）について
 - (5) 平成27年度事業報告（案）について
 - (6) 平成27年度決算（見込）について
 - (7) 平成28年度事業計画（案）について
 - (8) 平成28年度予算（案）について
 - (9) （一社）福岡県私設病院協会役員改選について
 - (10) 懇親会来賓案内について
 - (11) 2016年度診療報酬改定について
 - (12) 平成27年度「福私病ニュース」の表題について
 - (13) その他
 - 第24回参議院議員通常選挙候補者の推薦依頼について
3. 報告事項
 - 代表理事及び業務執行理事の業務報告
4. 協会及び関係団体事業報告
 - (1) 私設病院協会2月の動き
 - (2) 看護学校
 - (3) 医療関連協業組合

(4) 厚生年金基金

(5) 全日病本部

(6) その他

◎事務長会運営委員会

日 時 平成28年3月17日（木）午後3時～

場 所 会議室

議 題

1. 協議事項
 - 2016年度診療報酬改定について
2. 情報交換について
3. 報告事項
 - (1) 研修会について
 - (2) 私設病院協会1～2月の動き
 - (3) その他

◎研修会

日 時 平成28年3月28日（月）午後1時～

場 所 天神ビル 11階 10号会議室

議 題 「2016年度診療報酬改定のポイントと経営対応」

講 師 ASK梓診療報酬研究所

所長 中林 梓 氏

参加状況 143施設 305名



理 事 会

◎第32回 理事会 報告書

日 時 平成28年3月22日 (火)

16:00~16:50

場 所 ANAクラウンプラザホテル福岡 2階
「ウイステリア」

福岡市博多区博多駅前3丁目3-3

出席者 (敬称略)

会 長 石橋

副会長 竹中

理 事 上野専務理事、安藤総務理事、平
財務理事、津田企画理事、飯田、
一宮、岡留、小野、壁村、小柳、
津留、寺坂、中山、二宮、深堀、
吉村

監 事 福重、八木

議 長 岡嶋

副議長 梅野

顧 問 今泉、草場

オブザーバー 井上 (福岡大学病院長)

I 行政等からの通知文書の伝達 (安藤総務理事)
該当なし

II 公益目的事業関係

1 報告事項

(1) 各種委員会・研修会関係

【開催結果】

ア 第2回 栄養管理委員会 (吉村担当理事)

日 時 平成28年3月9日 (水)

15:30~

場 所 九州大学医学部百年講堂 2階
会議室1

協議事項

1 第65回栄養管理研修会の開催に
ついて

2 その他

イ 第2回 臨床検査委員会 (壁村担当理事)

日 時 平成28年3月11日 (金)

14:00~

場 所 九州大学医学部百年講堂 2階
会議室1

協議事項

1 研修会の名称について

2 委員の交代について

3 平成28年度研修計画について

4 その他

ウ 平成27年度 病院研修会 (安藤担当理事)

日 時 平成28年3月11日 (金)

18:00~

場 所 九州大学医学部百年講堂 1階

大ホール

テーマ 「医療事故調査制度と院内医療
安全」

I 「医療事故調査制度への実際の
対応」

国立病院機構

福岡東医療センター 院長

上野 道雄 氏

II 「医療事故調査制度を踏まえた
院内医療安全体制」

国立病院機構

福岡東医療センター

医療安全管理係長

馬場 文子 氏

※ 受講者数 241 名

受講料収入 241,000 円

エ 第52回 診療情報管理研究研修会
(平担当理事)

日 時 平成28年3月14日 (月)

10:00~

九州大学医学部百年講堂 1階
大ホール

テーマ 「診療情報管理士の役割・病院
運営との関わり」

講演 1) 「診療情報管理士、今日まで、
そして明日から」

講師 日本診療情報管理学会顧問・

日本診療情報管理士会会長

国立病院機構 九州医療セン

ター 診療情報管理センター

実務統括管理者 阿南 誠 氏

講演 2) 「激動の時代の事務職の役
割とは~特に診療情報管理
士に期待するものは~」

講師 社会福祉法人恩賜財団済生会

支部 神奈川県済生会支部長

正木 義博 氏

講演 3) 「我が国の健康保険制度と
問題点：診療情報管理士へ
の期待」

講師 東京工科大学教授・医療保

健学部学部長 梅田 勝 氏

シンポジウム 「診療記録の諸問題」

① 「重症度・医療看護必要度と診
療記録」

国家公務員共済組合連合会

新小倉病院 経営企画課長

吉崎 功一 氏

② 「地域密着型病院と急性期病院
の診療記録」

国立病院機構 九州医療セン

ター 診療情報管理士

岩橋 克記 氏

③「がん登録と診療記録の関係について」

久留米大学病院 腫瘍センター事務室院内がん登録係長
折岡 健太郎 氏

④「診療情報管理室実務と診療記録」

飯塚病院診療情報管理室サブマネージャー 原田 智史 氏

⑤「民間病院における診療情報管理の諸問題」

医療法人原三信病院診療情報管理士 長峰 麻衣子 氏

全体質疑応答

※ 受講者数 214 名

受講料収入 839,000 円

【開催予定】

ア 平成 27 年度第 2 回リハビリテーション研修会

(前回津留担当理事から報告済み)

日 時 平成 28 年 3 月 26 日 (土)

13:30 ~

場 所 九州大学医学部百年講堂 1 階
大ホール

基調講演「2016 リハビリテーション関連診療報酬改定の経緯・概要とその対応」

講師 医療法人共和会小倉リハビリテーション病院 院長 梅津 祐一 氏

シンポジウム「2016 診療報酬改定による影響とその対策」

①急性期

講師 社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 リハビリテーション室 室長 泉 清徳 氏

②回復期

講師 医療法人社団水光会宗像水光会総合病院 回復期リハビリテーション病棟
副主任 井上 圭二 氏

③生活期

講師 社会医療法人原土井病院
リハビリテーション部
副部長 宮本 秀和 氏

ディスカッション

Ⅲ 法人事務等関係

1 報告事項

(1) 各種委員会関係他

【開催結果】

ア 平成 27 年度 第 2 回 経営管理研究会
(津留担当理事)

日 時 平成 28 年 3 月 1 日 (火)

14:55 ~

場 所 大学医学部百年講堂 1 階
大ホール

テーマ

I 「2018 年の医療・介護同時改定に向けての展望」

学校法人ありあけ国際学園保健医療経営大学 理事長 麦谷 眞里 氏

II 「2016 年度診療報酬改正の概要と対応」

みずほ銀行 法人マーケティング部 特定法人チーム医療分野担当部長 岡安 保雄 氏

※ 受講者数 110 名

受講料収入 349,500 円

イ 第 2 回 経営管理委員会 (津留担当理事)

日 時 平成 28 年 3 月 10 日 (木)

15:30 ~

場 所 福岡県医師会館 6 階 研修室 5
協議事項

1 委員の交代について

2 平成 28 年度第 1 回経営管理研究会の開催について

3 その他

ウ 第 12 回ほすびたる編集委員会

(岡嶋編集委員長)

日 時 平成 28 年 3 月 22 日 (火)

15:45 ~

場 所 ANA クラウンプラザホテル 2 階
「ウィステリア」

協議事項

① 4 月号の現況について

② 5 月号、6 月号の編集について

③ 平成 28 年度表紙の色について

④ その他

【開催予定】

ア 第 115 回 医療事務研究会

(前々回二宮担当理事から報告済み)

日 時 平成 28 年 3 月 29 日 (火)

13:25 ~

場 所 九州大学医学部百年講堂 1 階
大ホール

講演「2016 年 診療報酬改定の概要」
(株)ヘルスケア経営研究所

副所長 酒井 麻由美 氏

質疑応答

(2) 第 30 回理事会の議事録について

(上野専務理事)

(3) 収入・支出内訳表 (平成 28 年度 2 月分)
について (平財務理事)

2 協議事項

(1) 平成 27 年度臨時会員総会の議案について
第 1 号議案 平成 28 年度事業計画について

(上野専務理事)

- ・今年度と同様の事業を計画。
- ・壁村理事から、担当の委員会に関連して、研修会の名称を「臨床検査研修会」に変更することが委員会で決定されたことに伴い、平成 28 年度研修会及び研究会開催計画表(案)の記載の変更を提案され、承認された。

第 2 号議案 平成 28 年度収支予算について

(平財務理事)

- ・会費の配分を、平成 27 年度決算見込みを参考にして、公益目的事業 45%、共益事業 5%、法人会計 50%としている。
- ・経常収益については、合計額を 3,284 万 8 千円。経常費用については、公益目的事業として 1,928 万 5 千円、共益事業として 660 万 6 千円、法人会計では 687 万円を計上し、合計額として 3,264 万 8 千円としている。
- ・公益法人の会計基準に関して、公益目的事業費の割合が総事業費の 59%、公益目的事業の収支についても若干の赤字としており、いずれも基準を満たしている。

第 3 号議案 理事の補充選任について

(上野専務理事)

- ・昨年 12 月に福岡大学病院の病院長の交代があり、当協会の理事(副会長)であった前病院長の田村氏が退任され、井上氏が就任されたが、井上氏に理事になって頂くためには会員総会での選任が必要であるので、本日の臨時会員総会に提案するもの。任期は前任者の残任期間(平成 28 年度定時会員総会終結時まで)。

- ・いずれの議案も特に異議なく決議事項として承認された。また第 3 号議案に関して、臨時会員総会での理事選任を条件に「副会長」に選定することが併せて決議された。

(2) 役員の辞任届及び入会申込み等について

- ・田中監事及び福重監事から提出された「監事辞任届」及び「退会届」については異議なく承認された。また、現院長(飯塚病院増本院長、こども病院原院長)の「入会申込」も承認された。
- ・ただし、監事の職務は、新監事の就任(定時会員総会)まで務められることが確認された。(定款第 23 条第 4 項)

(3) 「平成 28 年度福岡県中小病院・診療所薬剤師研修会議共催のお願い」について

- ・福岡県病院薬剤師会からの毎年恒例の共

催依頼であり、特に問題なく承認された。

3 その他【開催予定】(上野専務理事)

(1) 平成 28 年 4 月

ア ほすびたる編集委員会・理事会

日時 平成 28 年 4 月 26 日(火)

① 15:45 ~ ほすびたる編集委員会

② 16:00 ~ 理事会

場所 福岡県医師会館 6 階 研修室 3

(2) 平成 28 年 5 月

ア 平成 27 年度 定期会計監査

日時 平成 28 年 5 月 11 日(水)

16:00 ~

場所 八仙閣本店

福岡市博多区博多駅東 2 丁目

7-27

イ ほすびたる編集委員会・理事会

日時 平成 28 年 5 月 24 日(火)

① 15:45 ~ ほすびたる編集委員会

② 16:00 ~ 理事会

場所 未 定

(3) 平成 28 年 6 月

ア ほすびたる編集委員会・理事会・定時
会員総会

日時 平成 28 年 6 月 21 日(火)

① 15:45 ~ ほすびたる編集委員会

② 16:00 ~ 理事会

③ 17:00 ~ 定時会員総会

(H27 年度事業報告及び決算の承認)

場所 未 定

4 最近の医療情勢について

特に資料等の提出はなかったが、上野専務理事から医療事故調査制度に関しての経過報告があった。特に初期対応について人材面での協力を依頼された。この件は、今後五役会で検討することとされた。

また、安藤総務理事から、「地域医療連携推進法人」に関する各地の状況について話題提供があり、岡留理事、石橋会長及び寺坂理事から補足意見が述べられた。

さらに、岡留理事からの求めに応じて、竹中副会長から「地域医療構想策定」に関する進捗状況が報告された。

このほか岡留理事から「専門医制度」に関して意見が述べられるとともに、井上福大病院長と石橋会長から各大学の状況を説明され、竹中副会長が意見を述べられた。

ほすびたる 4月号をお届けします。

今月号からは、表紙のカラーがさわやかなグリーンとなりました。編集委員会一同、気持ちも新たに意欲を持って誌面作りに取り組んでいきたいと思ひます。皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今月号の新人物では、太宰府病院院長の小嶋享二先生と、久留米大学病院院長の志波直人先生に新任のごあいさつと抱負を述べていただきました。また、病院管理では、3人の気鋭の事務職の方々が原稿をお寄せ下さいました。激動する医療界の中であって、事務方の果たす役割は今まで以上に期待されています。チーム医療の一員として、事務職の皆様のますますのご活躍を祈っております。また、看護の窓、Letter、Essay、福精協の広場にも素晴らしい原稿をお寄せいただきありがとうございます。新年度の第1号として大変充実した「ほすびたる」となりましたことを心より感謝申し上げます。

先日、翻訳家でエッセイストの岸本佐知子さんが書かれた「なんらかの事情」（ちくま文庫）という著書の中で、大層面白い文章に出会いました。この本は短いエッセイをいくつかまとめたものですが、その中にある「物言うも物」というもの。久しぶりに爆笑してしまいました。本が売れなくなったりするといけませんので簡単に紹介します。

はじまりはデパートのトイレの便器が喋ったこと。「このトイレは、自動水洗です」。怖くなって

すぐ出て来たそうです。見渡してみると、冷蔵庫「ドアが開いています」、自動車（「ガソリンが、なくなりそうです」）など身の回りには物を喋る物がたくさんあり、大概は落ち着いた女性の声である。いいかげんうんざりすることも。そこで、臓器なんかも喋ったらいいのではないかと思いつくわけです。臓器の訴える声を聞いて病気の予防ができる。肝臓が初老の男の声で訥々と、「もう堪忍してください」。満員電車の中では、いろいろな臓器の音が聞こえる。「胃にあなたがあいています」「腸にポリープができています」「動脈が硬いです」などなど。著作権に触れるといけませんのでここまですぐやめます。詳しくは本を読んでください。他のエッセイもすこぶる面白いですから。岸本さんはある翻訳専門誌にこのような独特の味わいがあるエッセイを連載していたそうですが、一部の読者から翻訳と関係ないのではないかという投書を受けたそうです。しかしある著名な翻訳家が高く評価をしたため、これらのエッセイを含む著書（「気になる部分」）が刊行されています。このエピソードは、なんとなく「ほすびたる」の編集後記の立場と似ているようではありませんか。（えっ、全く関係ない？）

さて、4月号の編集後記を書き始めねば、と思った時、脳が喋りました。

「ネタ切れです。充電してください」（ムムム……、わかってる!）。

（岡嶋 泰一郎 記）

第146回 看護研修会のご案内

開 催 日 平成28年 6 月28日（火） 10：00～16：00

場 所 九州大学医学部百年講堂
福岡市東区馬出 3 丁目 1－1

参 加 料 会 員 病 院 1人につき 3,500円
会 員 外 病 院 1人につき 5,000円

講演 I 「フィジカルアセスメントをどう記録につなげるか」

講 師 愛知医科大学病院
看護師長・集中ケア認定看護師 小林 美和 氏

講演 II 「中堅看護師のための交渉術の極意」

講 師 上都賀総合病院
副院長・看護部長 齋藤 由利子 氏

* お問合せは福岡県病院協会事務局（電話 092-436-2312）までお願いいたします。

ほすぴたる

第 699 号

平成 28 年 4 月 20 日発行

発 行 ◎（公社）福岡県病院協会

〒812－0016 福岡市博多区博多駅南 2 丁目 9 番 30 号
福岡県メディカルセンタービル 2F
TEL092－436－2312／FAX092－436－2313
E-mail：fukuoka-kenbyou@globe.ocn.ne.jp

編 集 ◎（公社）福岡県病院協会

制 作 ◎（株）梓 書 院

〒812－0044 福岡市博多区千代 3－2－1
麻生ハウス 3F
TEL092－643－7075／FAX092－643－7095
E-mail：mail@azusashoin.com

編 集 主 幹…石橋 達朗

編 集 委 員 長…岡嶋泰一郎

編集副委員長…竹中 賢治

編 集 委 員…上野 道雄・安藤 文英

平 祐二・津田 泰夫

草場 公宏・塚崎 恵子